

J A たじまの主な事業の内容

信用事業

J Aの信用事業とは

貯金をはじめ、ご融資や為替など、いわゆる銀行業務といわれているものがJ Aの信用事業です。J A（農業協同組合）、県信連（信用農業協同組合連合会）、農林中金（農林中央金庫）の3段階の組織が緊密に結びつきながら「J Aバンク」として各種金融サービスを提供しています。

J Aたじまでは、地域の組合員・利用者の皆さまにとって、身近で便利な「農業・生活メインバンク」としてお選びいただけるよう、真心を込めたサービスで農業とくらしに貢献してまいります。

多様な商品とサービス

年金受給者の皆様には、専用の定期積金をご用意するとともに、グラウンド・ゴルフ大会や歌謡ショーなどの「年金友の会イベント」を実施しております。また、ご利用のたびにポイントが貯まり、お得にご利用いただける「J Aカード」をはじめ、地域の子育てを応援するため、児童手当に対応した子育て支援定期積金「たじまキッズ」の取り扱いを行うなど、他の金融機関にない商品・サービスの提供に取り組んでいます。また、貸出金では、新築から購入、借り換えまで組合員・利用者のニーズにあった多様な住宅ローン商品を取り扱うとともに、定期的に休日のローン相談会を開催しています。その他マイカーローンや教育ローンなど、組合員・利用者の生活を支えるための商品も取り揃えています。また株式会社日本政策金融公庫をはじめとする政府系金融機関等の代理貸付も取り扱っています。

共済事業

J Aの共済事業とは

相互扶助の精神に基づき、組合員の方をはじめとした特定の方の生命や住宅、自動車などの財産を守るために行っている事業がJ Aの共済事業＝J A共済です。

J A共済は、一般の生命保険と損害保険の両分野の機能を併せ持ち、組合員・利用者の皆さまのニーズに応える幅広い保障ラインナップを備えています。それら幅広い商品を、専門知識を持つスタッフ「ライフアドバイザー（L A：共済普及専任担当者）」が中心となり、「ひと・いえ・くるま」の総合保障の普及につとめています。

自動車共済の交通事故処理については、事故処理の専門スタッフを管内4拠点（豊岡、温泉、八鹿、和田山）に配置し、高度な査定・交渉技術・現場急行サービスにより、加入者に満足いただける体制をとっています。また専門職員と顧問弁護士による、無料の交通事故相談も好評をいただいています。

災害時の対応

J A共済では、自然災害発生時には、系統組織と一体となった迅速な対応ができるよう体制を整えています。

平成23年3月に発生し、東日本の広域に甚大な被害を与えた東日本大震災では、J A共済より、約9,000億円の共済金をお支払させていただきました。

また、近年の但馬地区における自然災害については、平成21年8月の兵庫県西・北部豪雨（台風9号）や、平成23・24年の大雪による雪害がありました。これらの際には、J Aたじまの職員が直ちに共済契約者世帯の被害調査を実施し、迅速に共済金をお支払いすることができました。

J A共済では、これからも、広域災害・自然災害の備えとして十分な力を発揮し、組合員・共済契約者に安心を提供できるようつとめてまいります。

なお、ＪＡたじま管内における平成 21 年兵庫県西・北部豪雨、平成 24 年の雪害、及び平成 25 年度の共済金支払実績は次のとおりです。

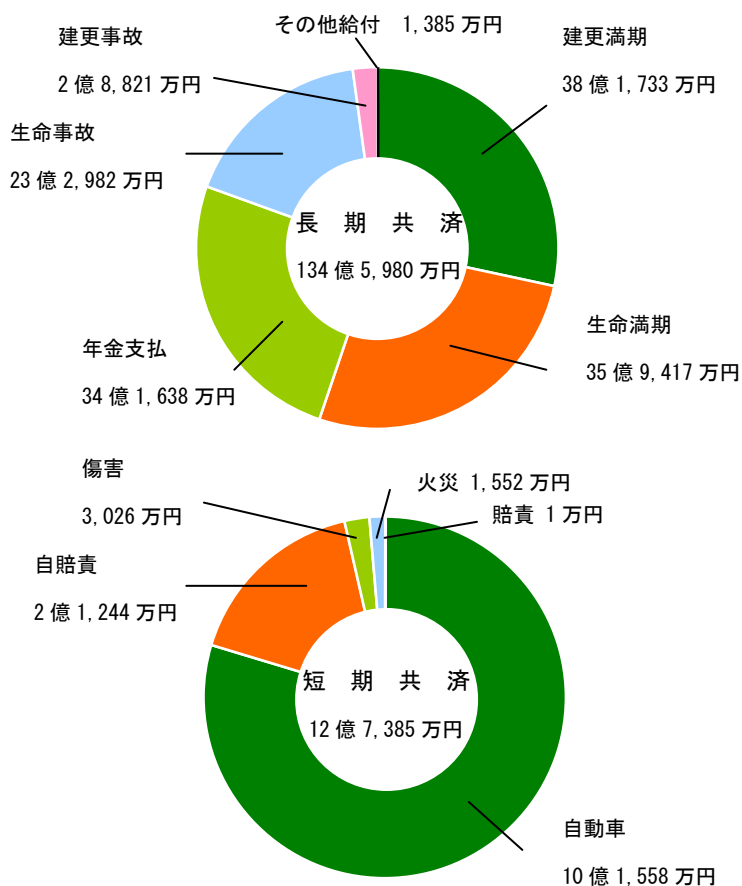
■平成 21 年の兵庫県西・北部豪雨における共済金支払実績

共済種類	市町村	支払件数	支払金額
建物更生共済	豊岡市	94 件	1 億 800 万円
	養父市	18 件	1,470 万円
	朝来市	66 件	1 億 600 万円
自動車共済	但馬全域	47 件	3,000 万円

■平成 24 年（1 月～3 月）の雪害における共済金支払実績

共済種類	市町村	支払件数	支払金額
建物更生共済	但馬全域	355 件	2 億 2,200 万円

■平成 27 年度共済金支払実績



ＪＡ共済の安心・安全度

ＪＡ共済の契約は、ＪＡたじまとＪＡ全共連（全国共済農業協同組合連合会）が共同でお引き受けしています。ＪＡたじまではＪＡ共済の窓口として、またＪＡ全共連は商品開発や資産運用業務・支払共済金にかかる準備金の積み立てなどを行っています。

ＪＡ共済の「ひと・いえ・くるま」の保障は国内トップクラスの契約量となっており、平成 28 年 3 月末のＪＡ共済全国実績は生命総合共済の保有契約件数：約 2,170 万件、建物更生共済の保有契約件数：約 1,054 万件、自動車共済の保有契約件数：約 836 万件となっています。またＪＡ全共連における、ソルベンシーマージン比率（支払余力）は、平成 28 年 3 月末現在において 797.7%となっています。

ＪＡ全共連の平成 28 年 3 月末時点の総資産は 55 兆 8 千億円となっています。また、大規模・広域災害を想定した異常危険準備金（災害などのリスクに備えて積立てる準備金）については、1 兆 8,227 億円を準備するとともに、海外への再保険の実施など、万が一の際の支払いには万全の準備を取っています。

営農畜産事業

J Aたじまでは、「J Aたじま 10 年ビジョン」に掲げた将来目標「地域と共に農業を活性化し、但馬の豊かな自然環境と食の安全・安心を守ります」を実現するため、農畜産物のブランド化や担い手育成、環境に配慮した農業への取り組みなどを中期計画「Plan 2016」の方針とし、様々な活動に取り組んでいます。

自然環境と共生する農業をめざして

平成 17 年 9 月に豊岡市で放鳥されたコウノトリは、一度絶滅した野生動物を世界ではじめて復帰させた取り組みとして注目を集めました。

そして現在はコウノトリと共存していくため、各地で様々な取り組みが行われています。J Aたじまでは、コウノトリが生活していく環境を維持していくために、組合員が中心となって様々な環境創造型農業を行っています。特に「コウノトリ育むお米生産部会」では、休耕田のビオトープ化や冬季湛水を行うなど、環境に負荷の少ない農法「コウノトリ育む農法」に生産者が一丸になって取り組み、「コウノトリ育むお米」の生産を行っています。環境創造型農業で生産されたお米は、京阪神地区を中心に高付加価値米として販売されています。

このような「コウノトリ育むお米」の取り組みが評価され、平成 22 年 11 月には、国、民間団体が構成する「グリーン購入ネットワーク」が主催する「第 12 回グリーン購入大賞」で環境大臣賞を受賞しました。また、生産者、行政、流通、J Aたじまなどが一体となって取り組んできた「コウノトリ育むお米」を通じた生産者と消費者の交流や、地元の子どもたちへの食農教育の実施、生物多様性の保全に新たな価値を創造したことなどが高く評価され、J Aたじまは平成 25 年に「第 42 回日本農業賞 第 9 回食の架け橋賞 大賞」、平成 27 年には「但馬産業大賞（自然と共生する環境創造事業部門）」を受賞しました。さらに、平成 27 年 5 月からイタリアのミラノで開

催された「ミラノ国際博覧会（ミラノ万博）」において、日本館の共通食材としてコウノトリ育むお米が使用されました。

これらの活動の他にも、J Aたじまでは、農林水産省の示した条件やトレーサビリティの確保、環境負荷低減への取り組みなど、自主ルールに基づいて生産された農産物を「コウノトリの贈り物」ブランドとして出荷し、皆様の食卓に美味しさと安心をお届けしています。認定された生産物には「コウノトリの贈り物」ロゴマークを添付して出荷を行っています。

今後も生産者・関係団体と連携し、環境創造型農業の実践を行うとともに、各地への普及に取り組めます。



「コウノトリの贈り物」ロゴマーク



優良米の産地として

但馬の稲作では、コシヒカリを中心に、安全で高品質な米の生産につとめており、兵庫県内における優良産地として高く評価されています。

環境に配慮したコウノトリ育む農法で作る「コウノトリ育むお米」のほか、流通関係者と一体となって取り組む「ふるさと^{たじま}但馬米」、コープこうべとの間で契約栽培している「つちかおり米」は、生産者にとって、より「持続可能な稲作」を実現するための取り組みであり、消費者の皆様により美味しく、より安全に食べていただけるお米となっています。さらに、「蛇紋岩米」「みかた棚田米」など特色あるお米の生産・販売もすすめています。この他にも、平成24年度より、担い手生産者を応援するため、「担い手応援米」の取り組みを始めています。

また但馬は、古くから優良な酒米産地として評価されてきました。現在では、主に兵庫北錦・五百万石・フクノハナといった品種の契約栽培を行っています。特にフクノハナは、蔵元との結びつきから全量を、減農薬・減化学肥料栽培に転換しました。

お米の消費が落ち込む厳しい販売環境の中、買っていただけるお米づくりのため、栽培講習会・研修会を開催して品質の高位平準化につとめるとともに、但馬広域営農団地運営協議会等、関係機関と連携して試験圃・試作圃を設置し、地域の栽培環境に適した優良品種の導入を検討しています。

また、但馬のおいしいお米を有利に販売するため、販売活動の強化にも積極的に取り組んでいます。契約栽培により、安定した販売先を確保するとともに、生産から販売、流通までが連携した「商品づくり」を行うことで、消費者に安全・安心でおいしいお米をお届けしています。さらに一般米についても、栽培方法を均質化して、他産地よりも有利な販売をめざしています。

地域の特性を活かした特産物づくり

管内の多くが中山間地域であり、小規模な圃場が分布するとともに、多様な栽培条件があるため、各地域の特色を活かした多彩な特産物づくりをすすめています。中でも、夏から秋にかけて収穫される夏秋ピーマンは近畿地方で一番の生産量を誇っており、JAたじまの基幹品目と位置づけ、さらなる生産の拡大に取り組んでいます。平成27年には、但馬産ピーマンのブランド化をすすめるため、「たじまピーマン」を地域団体商標に登録しました。また、平成22年度からは、同じく但馬発祥の農産物である「朝倉さんしょ」について、産地拡大のため行政と一体となった取り組みをすすめています。これらピーマン、朝倉さんしょの他、キャベツ、丹波黒大豆についても但馬一円での生産拡大に取り組んでいます。この他、岩津ねぎや美方大納言小豆、高原大根、ホウレンソウ、トマト、梨を地域振興品目に設定し、生産の維持・拡大につとめています。



特産物の様々な販売活動

但馬の多彩な特産物を、より多くの消費者にお届けするために、JAたじまでは様々な販売活動に取り組んでおります。インショップとして「農協の八百屋さん」を展開することで、多くの消費者に新鮮で安全・安心な野菜をお届けしています。また販売と同時に生産者の生涯現役を応援するために、朝市(直売所)を各地で開催しています。他の取り組みとして、但馬の特産品である「朝倉さんしょ」を様々な形で味わってもらうよう、加工品の開発も行っています。

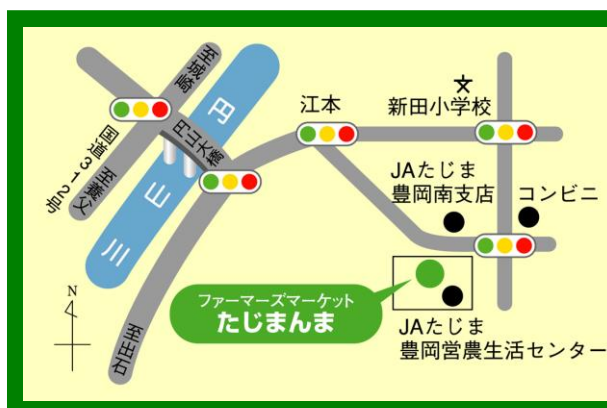
ファーマーズマーケット「たじまんま」

「たじまんま」は、毎日、但馬で育った新鮮な野菜や花、特産物を活かした加工品などが生産者の手によって持ち込まれる大きな直売所です。また、「たじまんま」では、但馬各地の環境を活かして作られたお米や、日本を代表する牛肉「但馬牛」もお求めいただけます。それぞれ「たじまんま」内に店舗を持つ、専門店「地米屋」「肉の店 豊岡店」で取り扱っております。

店舗名の「たじまんま」には、「但馬の大地で採れた特産をまるのまんま、そのまんま取り扱う」という意味が込められています。「たじまんま」では、生産者が丹精込めて作った安全で安心な農産物を、毎日、地元の消費者の皆様にお届けします。

平成 27 年 12 月からは、店頭に、但馬農産物の宣伝・販売担当として、人型ロボット「Pepper（ペッパー）」を設置して来店者をお迎えしております。

なお、平成 23 年 6 月のオープンから、地域の方や観光客など多くの方にご来店いただいた結果、平成 28 年 1 月には、来店者 100 万人（レジ通過者）を達成しました。



営業時間 : 午前 9 時から午後 6 時まで
 定休日 : 毎週火曜日（祝日の場合は営業）
 駐車可能台数 : 110 台
 売り場面積 : 約 700 m²
 場所 : 兵庫県豊岡市八社宮 490-3
 電話・FAX : 0796-22-0300/0796-22-0611

※年末・年始、祝祭日など、一部、定休日が変更となる場合があります。詳しくは各店舗までお問い合わせ下さい。

名牛「但馬牛（たじまうし）」の産地としての責任と誇り

日本が誇る名牛「但馬牛」は、優れた伝統と血統を持っています。その起源は古く、平安時代に編纂された「続日本書紀」ですでに「耕運、輓用、食用に適す」と紹介され、古来より優秀な血統として認められています。その伝統を守り、他府県牛との交配を避けながら改良を重ねた牛が、現在の「但馬牛」となっています。

古くから但馬で農耕用として飼育されてきた「但馬牛」は、肉質のすばらしさにより「神戸牛」・「松阪牛」などの素牛として全国的に知られています。「但馬牛」の特徴として

- ① 資質が抜群によいこと。
- ② 遺伝力が非常に強いこと。
- ③ 肉質、肉の歩留まりがよいこと。
- ④ 長命連産で飼料の利用性がよいこと。

などがあげられます。

そのような中、平成 19 年に、ＪＡたじまが兵庫県内の関係機関を代表して申請した「但馬牛（たじまうし）」という商標が「地域団体商標」として登録されました。

また、平成 27 年には、地域の伝統的な生産方法と、その風土によってもたらされた高い品質を評価し、その名称（地理的表示）を知的財産として保護するための制度「地理的表示保護制度（GI）」に「但馬牛（たじまぎゅう）」「但馬ビーフ」が登録されました。

但馬牛のセリ市「但馬家畜市場」

昭和 48 年に開設された「但馬家畜市場」（養父市）は、平成 19 年に湯村家畜市場と統合され、但馬地域としては唯一の家畜市場となりました。子牛市は 2・6・8 月を除く毎月開催されており、購買者は県内からだけでなく、松阪牛（三重県）「近江牛（滋賀県）」などの素牛を求める、他県からの購買者の方も来場します。

なお、但馬牛の継続的な改良方針と、高い肉質が評価され、平成 26 年、27 年の 2 年連続で子牛平均価格全国 1 位となりました。



但馬牛（たじまぎゅう）を身近にする「肉の店」

ＪＡたじまでは、より多くの方に但馬牛を味わっていただくため、新温泉町と豊岡市でＪＡたじま直営の但馬牛販売店「肉の店」を営業しています。精肉販売のほか、但馬牛を食卓で気軽に味わっていただくため、地元野菜と組み合わせたレシピの提案や、料理講習会などを開催しています。



【肉の店 本店】

営業時間 : 午前 10 時から午後 6 時半まで
(日曜日) 午前 9 時半から午後 6 時まで
定休日 : 毎週水曜日
場所 : 兵庫県美方郡新温泉町細田 160-1
電話・FAX : 0796-92-2538/0796-92-2548

【肉の店 豊岡店（たじまんま内）】

営業時間 : 午前 9 時から午後 6 時まで
定休日 : 毎週火曜日
場所 : 兵庫県豊岡市八社宮 490-3
電話・FAX : 0796-22-0310/0796-22-0620

※年末・年始、祝祭日など、一部、定休日に変更となる場合があります。詳しくは各店舗までお問い合わせ下さい。

生活文化・高齢者福祉事業

生活文化活動

女性会を中心に、史跡訪問教室、生け花、着付けなどのカルチャースクールが自主的な活動として行なわれています。ＪＡたじまでは、組合員のグループ活動を積極的に支援し、組合員の仲間づくりや生きがいづくりに取り組んでいます。

また、自治体など関係機関と連携して「町ぐるみ健診」「骨粗しょう症健診」を実施し、参加の呼びかけと事後指導を実施している他、料理教室での食生活改善など健康管理活動にも取り組んでいます。

高齢者福祉活動

平成 26 年 4 月に開業した「豊岡ショートステイ（豊岡市）」「七釜デイサービスセンター（新温泉町）」を加え、豊岡・浜坂・八鹿・和田山の 4 つの介護センターと 2 つのデイサービスセンター、1 つのショートステイ施設で高齢者福祉事業を行っています。また、高齢者福祉事業基本計画において 5 つの活動方針を掲げ、より質の高いサービスの提供と、安心してご利用いただける事業所をめざして「訪問介護事業（ホームヘルパー）」「居宅介護支援事業（ケアマネジャー）」「通所介護事業（デイサービス）」の介護保険事業・介護予防事業に取り組んでいます。また、各介護センターでは、利用者の様々なニーズに対応できるように、ＪＡ独自サービスとして「高齢者生活支援事業」を展開しております。また、介護保険対象外のサービスにも柔軟に対応することにより、利用者の利便性向上につとめています。



ＬＰガス・生活購買・旅行事業

保安の充実による安全・安心・信頼の提供（ＬＰガス）

地域の大切なライフラインのひとつとして、安全・安心・信頼の負託に応えられるサービスの提供につとめています。

24 時間保安体制をとって緊急対応を行うとともに、バルク供給システムなども導入し、安定的なガスの供給につとめています。

くらしをもっと豊かにする生活購買事業

食品や日用雑貨・耐久消費財など、ＪＡの組合員が、よりよい暮らしに必要なものを、組合員が直接選んで購入する事業がＪＡの生活購買事業です。平成 23 年度からは、「ＪＡくらしの宅配便」として、国産原料商品を中心とした、安全・安心な商品をより豊富に、より早くお届けしております。

旅行事業

ＪＡたじまの旅行事業は、農村や農家の旅行需要の増加に対応して開始されました。組合員や利用者のニーズに応えるため、広報活動を通して最新の旅行・観光情報の提供につとめています。

地域のつながりを深めるため、「支店ふれあい旅行」や「年金友の会旅行」を実施する他、小学生と保護者を対象としたツアーの提案を行っています。

イベント活動

地域とのふれあいと新しい絆づくりを求めて、「但馬まるごと感動市」などの大規模イベントに参加するとともに、但馬各地のイベントにも積極的に参加し、地域とのふれあいにつとめています。

また、ゴルフ・囲碁大会などの各種イベントを開催し、組合員相互の交流を深めていただきたいと思います。

広報活動

組合員との「良い関係づくり」を目的とした広報誌「リレーション」を毎月発行しています。また、家の光や新聞各紙・TV局への話題提供などにもつとめるとともに、ホームページを開設して、JAたじまの情報を発信しています。なお、平成27年度にはFacebook ページも開設しております。



JAたじまのホームページでは、但馬の農業の最新情報を発信しています。最新情報の RSS 配信も行っていますので、ぜひご利用ください。

<http://www.ja-tajima.or.jp>

JAたじまのホームページは、こちらの検索からご覧いただけます。



食農活動

但馬の農業のファンを増やすため、平成21年度より、但馬の小学生を対象とした食農体験教室「あぐりキッズスクール」を開校しています。会場ごとに地域の特徴を活かした農産物による農業体験や、収穫した農産物の調理を通して、食と農についての理解を深めます。また、食の大切さを伝え、但馬の人たちの健康な心と体づくりを応援するため、但馬全域を対象としたスポーツ大会の支援を行っています。この他にも、管内の小中学校でのピーマン栽培体験教室などの食農活動に取り組んでいます。



平成28年度のあぐりキッズスクールは、日高、村岡、八鹿の3会場で開催しております。